

コミュニティ ムスッ

私と人とまちの間に

2015.MAR
104号

3

編集発行
公益財団法人 草津市コミュニティ事業団

もくじ CONTENTS

FEATURE

町内会って、なんだ!?

- 2 町内会加入2割からのチャレンジ ～渋川南三町内会～
- 3 町内会が生まれるとき ～かがやきの丘町内会～
- 5 ご近所まんが くさつがわ家とお隣さん～これって、みんなの問題～
タイムスリップくさつ(最終回)
- 6 みんなとめん・めん 通算45号
- 7 まちがいがし
- 8 熊谷栄三郎の徒然草津 第16回

三大神社のサンヤシ

草津のサンヤシ踊りは市内に7つあります。その一つが「砂ずりの藤」で有名な三大神社で5月の例祭に奉納されます。疫病などの災いが起こらぬようにと願いを込めて、白い法被姿も清々しく鉦や太鼓を鳴らしながら踊るにぎやかな風流踊りです。樹齢400年の藤もちょうどこのころ美しい花を咲かせてくれます。 写真:大條紘史(写真は3年前)

6年前、体より大きいのでは?と思うランドセルを背負ってサクラの祝福を受けた息子が、この春には中学生。今では私の背も追い抜きてっ。少し嬉しいような、どこか寂しいような春です。
「上着脱ぎ 春一番」ともに行く「トランペット 高いソでたら 風光る」(ごちそう)「ごちそう歳時記」(より)



してもらえないお宅には一軒一軒連絡してくれたのです。こうしてついに管理組合と町内会が一緒になる大きな転換となる決議が定期総会でなされました。平成24年12月のことでした。

そのまちに来た時にはもう“そこにある”町内会。「身近」「あって当たり前」の町内会だから、町内会って何のためにあるのか、ボヤッとしてしまう。でも、はじまりやターニングポイントといった`そのとき、`を知ることで見えてくることもありそうです。
今号では市内で頑張っているたくさんの町内会の中から渋川南三町内会とかがやきの丘町内会の`そのとき、`のお話を聞いてみました。

FEATURE

町内会加入2割からのチャレンジ 〜渋川南三町内会〜

草津駅から徒歩3分。近鉄百貨店隣のローレルコート草津は257戸、その利便性の高さから広い世代に人気のマンションです。建ったころには希望する居住者170戸が加入し渋川南三町内会を設立。ところがこの年をピークに町内会を脱会する人が続出、平成24年には50〜60戸、つまり2割程度の加入にまで激減しました。

本当に助けられるだろうか？

こんな中、町内会長に市の災害時要援護者登録制度の名簿受け取りの要請依頼がきました。災害など万一時、家族以外の第三者の支援がなければ避難できない要援護者の中には、同じマンションであっても町内会に加入していない人の名前も名簿に記載している可能性があります。個人情報という「名簿の重さ」、町内会に加入していない人も含まれている可能性を感じ、当時のマンション管理組合の理事長に相談。すると「町内会をまるごと管理組合の部会に組み込んでどうか」との答えが返ってきました。意外でした。居住者は管理組合への加入が義務づけられています。その管理組合の部会となるわけですから町内会も自然と全戸加入となるわけです。それには高い壁がありました。全居住者の3/4以上の賛成を得て管理組合の規約を改正する臨時総会を開く必要があったのです。

町内会に入るメリット？

管理組合の理事会は協力的でし

た。「新たに町会費を徴収しない」など負担感を極力なくす案を作成し、臨時総会の準備を進めてくれました。また町内会の資料作成や当日の説明は、お二人の元町内会長が力を貸してくれました。臨時総会前には居住者との意見交換会も実施。ここでは意見がぶつかる場面もありました。それは「町内会に入るメリットは何なのか？」ということ。それには「渋川の地域に住む一員として、地域住民としての役割を果たすことも必要ではないか。まちが自分に何をしてくれるのかという権利ばかりを言うのでなく、自分たちのまちを一緒につくっていく地域住民としての義務も考えてもらえないか」と答えました。実際に言うには勇気のいることだっただろうと想像します。

こうしてこぎつけた臨時総会の結果はなんと審議不可。参加者が定数に充たなかったのです。審議さえされない一折れそうな気持ちを支えてくれたのは管理組合の理事の皆さんの「定期総会でも一度挑戦しよう」の言葉でした。今度は総会に出席できない居住者からは委任状を出してもらおうと依頼し、提出

このまちにお世話になります

現在、全戸加入となった町内会の活動は管理組合のコミュニティ部のひとつとして進められています。居住者同士のコミュニケーションを図るための親睦会、防災訓練など行事、催しを重ねることにマンション内の「コミュニティ」が深まっていくと実感しています。こんなことがありました。このマンションには一部、賃貸部分があるのですが、そのお宅の女の子はいつも

町内会の行事に参加してくれ「ここが大好き」と言ってくれました。さらに嬉しいことに、女の子のご両親にお会いすると「これからもこのまちにお世話になることに決めました」と分譲に切替えたことを伝えられたとか。



見えない大きな価値

現在の管理組合の理事長は言います。「資産としての価値を維持することが大きな目的となる管理組合だけではマンション内の「コミュニティ」や居住者同士のつながりをつくるには限界があります。町内会の活動があつてはじめて「コミュニティ」が豊かになっていくと思います。そして、その「コミュニティ」の豊かさは結局マン

ションの見えない価値へとつながっているんですよ。」
人のつながりが煩わしいからマンション暮らし。マンションに付きまとう今回の話。「行政が何をしてくれるのか」ばかりでなく、「自分たちには何が出来るのか」の視点に気づいた人が多い地域ほど、「コミュニティ」を育み足腰の強い地域になっていくのだらうなと感じる取材となりました。

FEATURE

町内会が生まれるとき 〜かがやきの丘町内会〜

かがやきの丘は現在320戸。市外や他府県からの入居も多く、各戸の車庫にはファミリーカーや子どもたちの小さな自転車も目立ちます。今日は日曜日ともあって玄関前でバドミントンを楽しむ家族の姿も見かけました。この若いまち、かがやきの丘で町内会の立上げに尽力した4名の住民さんに町内会の、はじまりの話を聞きました。
とこころであなたのケータイやスマホには、同じ町内の人の連絡先が何人登録されていますか。ゼロ、という人も少なくないのでは。この質問の意図は本文でどうぞ。

個人の善意も限界

まち開きがあったのは平成19年。1年程度の差はあれど4人ともほぼそのころに引越してきました。当時は入居数も少なく町内会もありません。市の職員でもあった服部さんは「ついでだから」と「ミ袋」を市役所からもらってご近所さんに配っていました。その後も開発は進み、個人でご近所分の「ミ袋」を持っ

て帰るのも限界、いよいよ町内会の必要性を感じました。同じころ、中村さんは「公園の草が背丈ほど伸び放題になっている」と近所から相談を受け、有志で草刈りをしていました。個人や有志での善意も限界に達し「誰かが町内会をつくらないといけないな」という気持ちが入居者の中にも芽生えはじめます。まち開きから3年、すでに半分以上の区画が埋まっていました。

やるべきことはたくさん

すでに気心の知れた仲間になっていた4人を含む数人が町内会設立のための準備会を立ち上げました。といつても、もちろん全員が町内会を立ち上げた経験などありません。会長は中村さんに、市役所から町内会の立ち上げのために必要な手続きのアドバイスや資料をもらう人、近隣町内会から規約を集めて素案をつ

くる人など現役世代らしく、仕事での知識なども活かして分担しながら手探りでスタートです。
準備会ではまず「町内会設立に賛成してもらえるか」アンケートで住民の意見を聞くことから始めました。「なぜつくるの？」と疑問を持つ人はいたもの大きな反対意見はありません。他にもやるべき事はたくさんあります。町内会費はいくらが妥当なのか、もつすぐ建つ自治

服部 英亜さん／坂口 誠さん
瀬戸口 健さん／中村 洋さん
(上部写真左から)



佐藤 徹さん
(渋川南三町内会副会長)

2年前に引越してきました。上手に声をかけてもらい自然な感じで入ることができました。私のように声をかけられればお手伝いしたいって人は、若い人の中にも結構いると思います。



出呂町 馨さん
(渋川南三町内会会長)

私たちの町内会は、まだまだ発展途上です。今よりは前へ進めるのか、後ろへ下がってしまったのかわかりませんが、少しでも前へ進めるように皆さんと協力していきたいと思っています。



稲谷 英雄さん
(ローレルコート草津管理組合理事長)

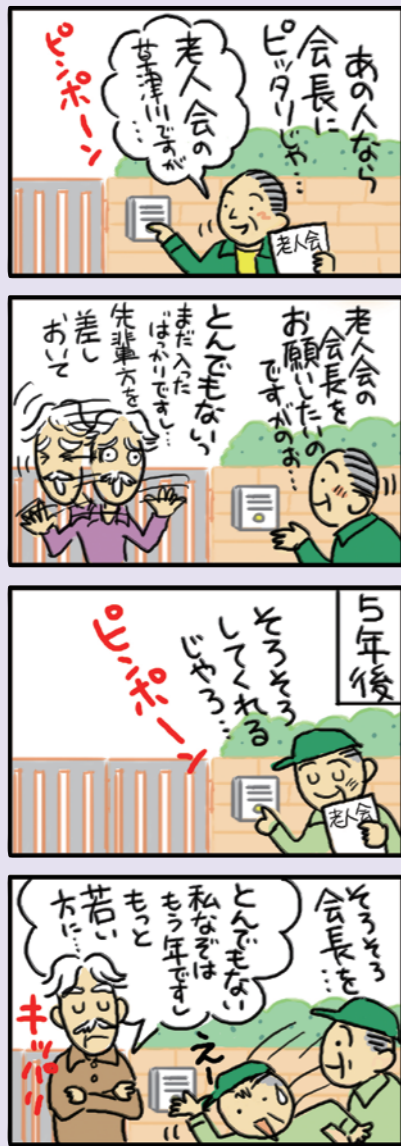
これからは、また新しく来られた人も参加しやすい環境をつくっていききたい。まちと関わることもおもしろいと思ってもらえる環境をね。



高森 嘉樹さん
(ローレルコート草津管理組合副理事長)

転勤で九州のとある小さな町にいたことがあります。大人から子どもまで見ず知らずの私にあいさつをしてくれる気持ちの良い町でした。このマンションもね、あたたかい場所にしていきたいんですよ。

これこれ40年の「ふれあいタウン」。
どこにもあるようなこの町で、今日も繰り広げられる
今ドキご近所のちよつこなれた毎日。
楽しくも少し考えてしまふ。もしかして……これって、みんなの問題かも。



いつなら?

さく・com-com
え・まんじゅう

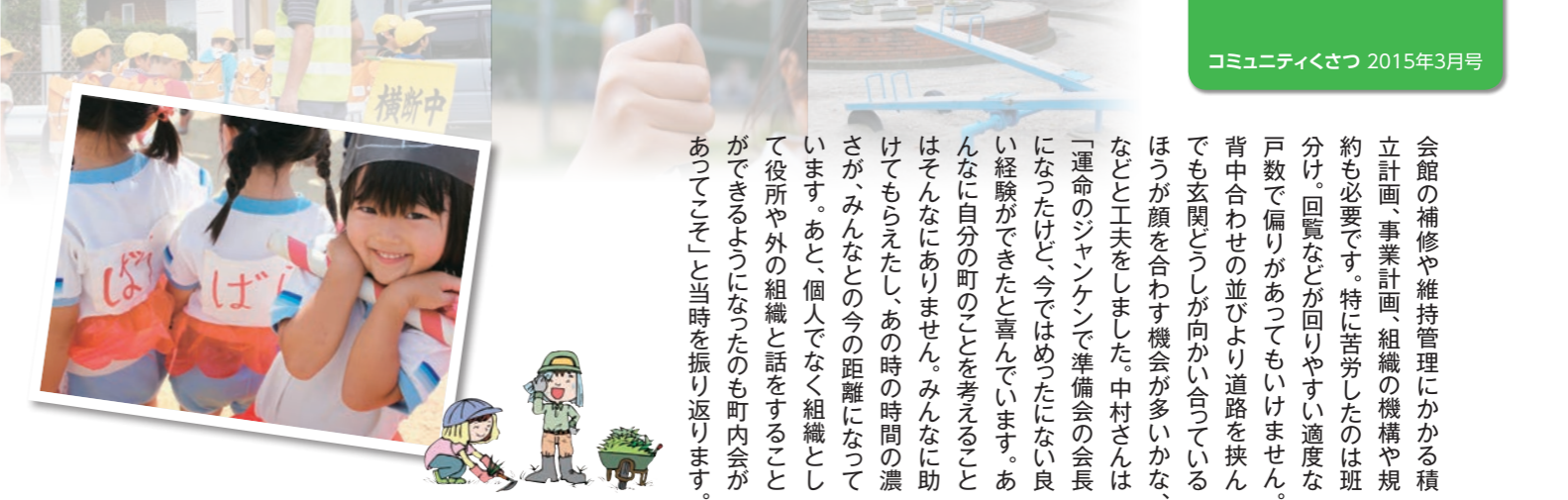
2人の登場人物、あなたはどちらの立場に共感しましたか。会長や役員の出選はなんとも悩ましい問題ですね。こみ平さんのボヤキが聞こえてきそうです。

これが町内会長なら「次期会長を決める会議になると決まって欠席が多くなる」「高齢者は除く免除規定をつくって、気がつけばみんな対象者になっていた」「会長になるくらいなら町内会を脱会する」なんて笑うに笑えないエピソードも耳にします。

おそらく「自分の町のことから、できることはできるだけやらないといけない」と多くの人が感じています、たぶん。少なくとも「どうしてもイヤ!」と押し通すのは相当な度胸と根気が必要でしょう。でも、できないのです。「勤めに出ているので時間がつかれない」「高齢や障がいのために、実質できない」「パソコンや事務が大の苦手」など理由は様々。一方で「不公平だ」「ワガママだ」なんて声が上がると、もう収集がつかません。

なにか妙案はあるのでしょうか。もちろん答えは否。あるならとっくにしていますものね。でももう少し「やりたくない・やれない理由」を細かく分析すると状況が改善することもありそうです。「時間がない」という人には会議や準備にかかる時間の目安を示してあげたり、パソコンや事務は得意な人が代わりにして負担を減らすこともできるかもしれません。自分たちの町のことは自分たちで決められるのです。「公平に・公正に」と行政ばりに肩肘はらず、その理由を受け止めてみましょう。少しハードルを低くするだけで協力者は増えるかもしれません。だって、みんな解ってるんですから。それに「はじめは嫌々やったけど、やってみたら結構楽しかった」なんて町会長は意外と多いものです。

参考
「町内会」は義務ですか?～コミュニティと自由の実践～
紙屋高雪(小学館)



忙しいながらも、楽しく濃密な一年をかけて正式に町内会が発足。困ったのは会議をする会館がまだなかったこと。時には役員宅に20人の班長を集めたこともあるが、あまりに窮屈で奥さんも子どもたちも外に退避したのも今となっては楽しい思い出です。会長・副会長会計は準備会メンバーから出し、最初の2年間は三役を変えずに足元を固めることにしました。今では立派な会館もでき、三役も他の住民さんがなつてくれ、町内会として軌道に乗りました。

「準備会の時のように形の無いものをつくっていくのは楽しい時期です。皆が前向きで同じ思いを持っているからだと思います。今は町内会の仕事だけでなく、まちづくり協議会にも加わり活動は増えています。比較的、時間に余裕のある退職者世代に町内会の役を持ってもらえたら助かる部分もあります。一人が頑張るのでなく、10人が1/10ずつ頑張れるしくみを考えていきたい。」と堅実な意見の坂口さん。「やがて子どもたちが成長して巣立って、いずれ戻ってきてくれるような町にしていきたい。君たちの将来のためにと」

動いてくれる大人がいることも子どもたちには教えていきたい。そのためにはシステムではなくコミュニティを広げながら楽しく暮らせたから、子どもたちのためというものは自分が老いたときのためでもあるんですよ。」

とにかく若さを感じる町、高齢者世帯は町内の約1割です。驚くのは家の行き来が子どもだけでなく大人にもあること。休日ともなると頻繁にちちらごちちでパーベキューをしていて、通りかかると「一緒にどうですか?」「すぐ行きます」なんて交流もあります。瀬戸口さんは言います。「今の若い父親は家事もすれば子育てもします。子どもを寝かしつけてから「飲みませんか」と近所の人から連絡が回ってくるんですよ。LINEやフェイスブックに町内の登録が約30人あります。こうした道具を使って交流していくのは新しい町内会のつながり方もかもしれませんね」なるほど。「まあ、楽しくやれている一番のポイントは家族の理解かな……」服部さんの渋いつぶやきで取材はお開きです。



コミュニティ事業団設立30周年企画
タイムスリップくさつ ~草津市30年を振り返る~

《最終回》あしたの草津を創る ~協働のまちづくり~
少子高齢社会を迎える日本、限りある財源をどう配分していくのか。国で平成13~18年は「中央から地方へ、官から民へ」といった構造改革が進められ、社会を取り巻く環境が大きく変わろうとしていたこのころ、ここ草津市でも大きな転換期を迎えます。NPOなど市民活動の隆盛が引き金となり「行政主導のまちづくり」から「市民との協働」によるまちづくりへと転換されるようになりました。平成20年には「協働のまちづくり指針」が示されたことを皮切りに様々な計画が策定、昨年26年には協働を支えるための「協働のまちづくり条例」も施行されます。

もちろん、制度面だけでなく協働提案事業など具体的な協働を進めるための事業が展開されるとともに、中間支援組織の指定や各小学校区にまちづくり協議会が設置されるなど、組織体制面の整備が進みました。
私たち市民一人ひとりが知恵や経験などを持ち寄り、自ら考えて協働で取り組む。この一歩が明日の草津市を築いていきます。

まちづくり協議会
基礎的コミュニティである町内会や自治会などを中心とし、概ね小学校区を範囲として設置される区域を代表する総合的な自治組織。区域内で活動する個人・団体が構成され、透明性・民主的な運営により協働のまちづくりを行っていく組織。

中間支援組織
「協働のまちづくり」を活性化させるために必要な支援を行い、市民と市民または市民と市の間に立って活動する組織。

「草津市協働のまちづくり条例」より

50 株式会社 **三井田商事**
JR南草津駅前に移転しまして4年目を迎えております。弊社も地域と共に発展したいと考え、**土曜出勤日には駅前及び会社周辺の清掃活動を実施**しております。今後も地域の皆様に支えられる企業になれるよう日々努力して参ります。弊社は京都府下及び滋賀県下でOA機器を販売し、自社でメンテナンスしております。又、水の宅配事業も展開しております。

滋賀営業所 / 〒525-0050 滋賀県草津市南草津1丁目1-5
TEL:077-598-1611 FAX:077-598-1651

スマイ印刷は、
自然環境を守る地球に優しい
製品づくり「エコ印刷」に
取り組んでいます。

株式会社スマイ印刷 sumaiprint.com
本社:520-3014 滋賀県東市川辺568-2 p:077-552-1045 f:077-552-0890
東京オフィス:103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4階 p:03-5201-3525
甲斐水口ファクトリーPF1:528-0068 滋賀県甲斐市水口町ひのきが丘36-6 p:0748-63-1045

見つけ ズバリ!

どっか ふるさと草津「変」

4月も下旬になると藤の季節。三大神社では棚から地面まで届くような「砂ずりの藤」が楽しめます。付近の神社も合わせての「藤まつり」では夜間のライトアップ・和楽器の演奏・野点などが催されます。下のイラストには上のイラストとちがう部分があります。まちがっている部分を答えてね。



イラスト：大村恵（編集ボランティア）

【応募方法】

ハガキに①答え②郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号③今号の感想を添えてご応募ください。FAX、メールでもご応募できます。

※切...**3月31日(火)** 当日消印有効

【宛先】

〒525-0037 草津市西大路町9番6号
(公財)草津市コミュニティ事業団
「コミュニティくさつ3月号」係
✉ com-com@mx.biwa.ne.jp
☎ 562-9340

【プレゼント】

正解者の中から抽選で「なごみの郷」の温浴施設入浴券(1名分)と施設内にある軽食・喫茶「和味屋(なごみや)」のお食事券(600円分)がセットになったチケットを5名様にプレゼント

- 志那三郷 藤まつり
三大神社・志那神社・惣社神社にて
4月29日(祝)～5月13日(水) 予定
- お問い合わせ先
草津市観光物産協会 ☎ 566-3219

前回の 答え



たくさんのご応募ありがとうございました。

※ご応募いただいた内容は、プレゼントの発送および今後の誌面づくりに活用し、それ以外の目的で個人情報を公表・利用することはありません。

まちセンの仲間を紹介します

NPO法人 生命の貯蓄体操普及会草津連絡所



生命の貯蓄体操は「筋肉を鍛える」のでなく体をほぐします。日々の生活を健康に暮らすための免疫力と治癒力。つまり病気にならない体、病気になっても自分の力で治す体づくりです。「参加者からも腰痛が改善された・風邪をひかなくなった・性格が明るくなったなどの声をいただきます。長く健康でいられる体づくりをめざしてこの活動を普及したい」と代表の中村さんは

意欲的。幅広い年齢層から注目されているこの体操、リラックスした状態であるのが長続きする秘訣かもしれませんね。

草津市学童軟式野球連盟



連盟は1978年の設立です。練習や試合を通じて野球技術はもちろん人間性とマナー、たくましい心と身体づくりに励んでくれるよう学びの手伝いをしています。約10年前から女の子の入団もあり、今ではチームの主軸となる選手もいるとか。「野球の好きな子どもがいる限り、この活動を続けたい」と語る指導者の熱意がひしひしと伝わってきました。

福ふくゼミナール



「本物」と呼ばれるその道の達人を招き、学ぶゼミナール。今やこの元気の輪は滋賀県域にまで広がっています。読書会・清掃活動・映画鑑賞会などの活動もあり、その時々参加者が会員となります。清掃活動では「街がきれいになるだけでなく自分の心もきれいになる。ますます人々のためにがんばりたいと思う」と活動を語る代表の木谷さん。

これまで200名以上の参加者があり、「これからも絆を大切にしていきたい」という活動は今日も元気です。

アクタレーズ

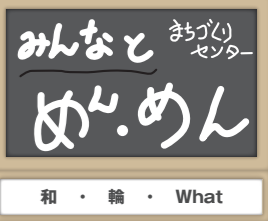


毎週土曜日、エクササイズを中心に活動しています。メンバーは「ここに来ることが元気の源!」と笑顔いっぱい。「80歳や90歳になってもブリッジができる。できないよりできたほうがいい。『あくたれ主婦』の集まりなんです」と代表の期(きい)さん。「ダンスを通じて家庭も地域も元気になってもらいたい。」とアクタレーズの願いは無限大です。

みんなとめんめん 通算45号

お問い合わせ先 ● まちづくりセンター ☎ 562-9240 ☎ 562-9340 ✉ machi@kusatsu.or.jp

このコーナーは、まちづくりセンターの登録団体でつくる「運営協議会」が担当します。運営協議会では、それぞれ自身の活動から少し離れて「みんなの場所」としての、センターの役割やまちのことを考えながら、みんなで一歩ずつ成長する場所です。



熱意にふれ、
私も育つ。桜も育つ。

琵琶湖ネット草津 高岡 實さん

まちセン運営協議会では毎年、まちセンと同じ中間支援施設の視察研修があります。事前に研修部会で検討を重ねて協議会みんなでいきます。「当初は建物中心の視察でしたが、次第に、より良い組織の運営とはといった点に目が向くようになりました。運営に携わっている組織の話や活動ぶりを聞いてみると、運営協議会や私たち個々の活動も良い方向にシフトされていきます。また一緒に見聞させたメンバーと語り合うことで、研修内容が色々な角度から反復され、充実感を味わうことができました。」世代も地域も越えて行う研修の醍醐味がここにあります。

高岡さんが会長を務める、琵琶湖ネット

草津では新草津川の流域に桜を植樹、みんなの憩いの場となる環境へと整備しながら、まちづくりを進めています。「草刈りが大変。でも要領も良くなってきました。草刈りの交流もあって楽しくやっています」と高岡さん。桜の木を真ん中に、多世代で行う草刈りやお花見を通じて地域を愛する心を育んでいる素敵な活動ですね。今年の桜は味違う美しさを見せてくれそうです。日ごろの会議や行事を通じて、組織や人がそれぞれに感じ、学んでいく。それがまちセン運営協議会のらしさになっています。

聞き取り... 渡辺智子
(草津・栗東おやこ劇場)

▼今年の研修はまちセン周辺のまちあるき。



春 CD付き英語絵本&専門図書館が草津にオープン!

4月1日(水)西大路の草津コミュニティ支援センターにCD付き英語絵本&専門図書館「まちのちっちゃな図書館☆インターナショナル」が本格オープンします。

オリンピックが開催される2020年、公立小学校の3年生から英語教育が始まります。語学の習得だけでなく異文化理解力やグローバル社会でのコミュニケーション能力を身につける機会が充実したものとなるように、「今から英語にふれあう時間があったらいいな」との思いで図書館の開設を思い立ちました。世界観を養い刺激するステキな絵本を揃えました。3歳児ぐらいのお子さんに合わせたラインナップ100冊を貸し出します。ご家庭でも英語絵本の読み聞かせが実現しますよ。毎月第1・3・5火曜には「絵本紹介DAY」も開催。ぜひ親子でお楽しみください。

「自分の発音では不安」「どんな本がいいかわからない」「欲しいけれど本が高くて…」そんな悩みも一緒に解決してみませんか。

【利用説明会】**3月31日(火) 10:30~**
(予約が必要です) 参加費 100円

【半年会員】**3,000円**
(3月末までの入会なら2,000円 但し先着30名様限定)

【とこ】草津コミュニティ支援センター
(草津市西大路町10-12 ☎ 563-0932)

【問合せ・申込】uchidayukie@willcom.com E-Touch:YUKI まで
*当事業はH26年度草津市コミュニティビジネス育成費補助金で運営しています。



熊谷栄三郎の
徒然草津
つれづれくさつ

第16回

日送り少女

熊谷栄三郎



今年の春分の日は三月二十一日。秋分もそうだけど、太陽が真東から出て真西に沈む日だ。彼岸会でもあり、正しい方位の再確認もできるので、うれしい日である。なにしろ三年前から毎日のように、勝手に夕日の観察を続けている私だから。今の日本人はすっかり忘れていっているが、かつて彼岸には、各地で興味深い行事が行われていたという。

午前中は「日迎え」といって太陽を迎えるように東に向かって歩き、午後は「日送り」といって西に向かって歩く風習である。「日天様のお共」という地方もあるらしい。太陽に感謝し、豊穣を祈る意味もあるのだろう。いつか私もしてみたい。並のウォーキングや遠足より楽しいのではないかと。昨年、春分が近づいてきた日の夕方のことだった。カメラを構えた一人の少女が上笠の葉山川堤防で、比叡連峰の彼方に沈もうとする夕日に向かってさかんにシャッターを切っていた。

た。付近一帯は私の夕焼け観測の領域なので、見過ごすわけにはいかない。話を聞いてみた。栗東市に住む女子高校生だった。美しい夕日をカメラで撮影しながら川沿いを歩いているうち、なんと下流の草津まで来てしまったのだという。夕映えの中で「きれいな夕日ですね」と顔を輝かせる彼女を、私はひそかに「日送り少女」と命名した。

その話を町内の奥さんにすると、奥さんはお返しにこんなことを教えてくれた。ある夕方、伊佐々川付近を散歩していたら、見知らぬお婆さんが「夕日がきれいだから追っかけて行くの」と叫びつつ自転車で琵琶湖の方へ走り去って行ったのだと。婆さんを私は心の中で「日送り婆さん」と命名しておいた。さて、日送りということにこんなにも関心を持っている私の正体をここで明かしておこう。実は私、その日その日をなんとか送っている「その日送り老人」です。表向きはエヘン、自称・草津夕焼け観測所長ですけれど。

編集後記

- 毎朝近くの小公園でのラジオ体操に参加しています。参加者は30人ほど。朝の挨拶を交すだけで、行けば何となく安心して、休まなくて良かったなと思うのです。(中井)
- 陰鬱な世相でも、蠟梅に始まり梅、桃と花は時を忘れず咲いてくれます、春はいいな!(橋詰)
- 我が町内の関心事は、5月3日の神輿渡御が国道1号線隧道の撤去工事により今年限りで草津川堤防を通り町内に入れないこと。説明会では「陸の孤島になる」との意見も出ました。(石田)
- 今、渋川がすてきです。「渋川いきもの絵図」や紙芝居の取り組み、地域との交流が積極的に行われています。いのち生きている私たち。つながりあって今ここに。いまち渋川大好きだ!(中村)
- 「漠然とした目標では叶うものも叶わない。小さくても明確な目標を掲げ、日付・期間・金額・大きさなど数字で表すこと。」なるほど、最近のんびりしすぎている私。今年は町内会役員も当たっているので気を引きしめなければ!(大村)
- 年寄の望むものには若者がついていけない、古くからの住民が望むものには新しい住民はついていけない、その逆も同じ。余りにも激しい時代の進歩・社会環境の変化が人間本来の進化のスケジュールを大幅に超えているのでは。(辻浦)
- 人間社会、やっぱり絆ですね。町内会、最も身近な娯楽であり、保険だと思えます。(矢原)

「コミュニティくさつ」は、
みんなでつくる
まちづくり情報誌です!

市民編集ボランティア

「コミュニティくさつ」は市民の皆さんと共に作成発行しています。本誌の企画、取材、寄稿、配布などを一緒にしてもらえる市民編集ボランティアを募集しています。写真やイラストが得意な方も大歓迎。

- 編集会議(3か月に1回)で意見を出してくれる人
- 取材同行や寄稿をしてくれる人
- 写真やイラストを提供してくれる人
- 自身の町内会や団体メンバーに本誌を配布してくれる人

● 申込み・問合せ ●

(公財)草津市コミュニティ事業団 まちづくり振興課内
コミュニティくさつ編集部

広告掲載募集

本誌への広告掲載を希望する団体または企業を募集します。ただし企業の場合は本誌の趣旨を理解した上で、物品やサービスの販売でなく、企業の地域貢献や社会貢献の周知に限ります。(この広告掲載は事業団が行う市民公益寄付金制度における寄付金として処理させていただきます)

- 1回1枠(名刺サイズ)5,000円

【コミュニティくさつ】

- 約6,300部発行(年4回)
- 市内町内回覧のほか、市内公共施設や銀行等に配架

● 申込み・問合せ ●

(公財)草津市コミュニティ事業団 まちづくり振興課内
コミュニティくさつ編集部

「コミュニティくさつ」の経費(企画編集、印刷、折込など)は1部あたり35円です。この経費は事業団が行う公共施設運営管理(指定管理)などの経費縮減などで得る独自の収益金のほか、市民の皆さんからの寄付および本誌に掲載している企業等の広告でまかっています。

